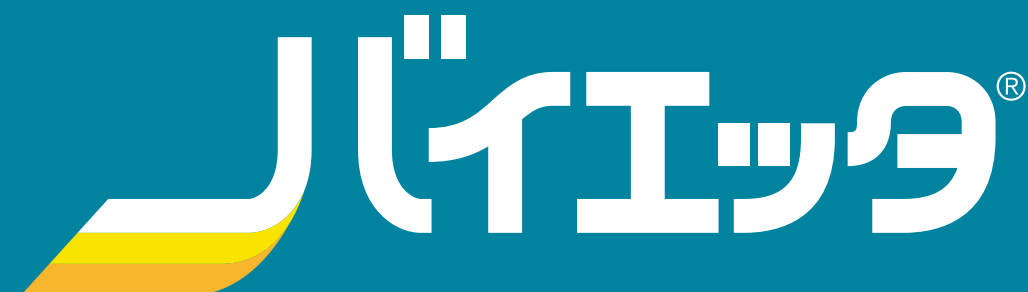


バイエッタ®ペンについてご質問や疑問がある場合は、医療機関もしくはコールセンターにお問い合わせください。

エキセナチド製剤 お問い合わせ先

受付時間 / 月～土 9:00～22:00(日除く)

0120-189-550



の使用を始めるにあたって



この小冊子はバイエッタ®の特徴やご使用にあたっての注意事項などを解説したガイドブックです。内容をよくご理解いただきバイエッタ®をご使用くださいますようお願いいたします。

監修：関西電力病院院長 清野 裕 先生

ご不明な点は主治医へお問い合わせください。

【重要】医療従事者の皆様へ
当ガイドブックは、バイエッタ®を使用される患者様へお渡しください。

バイエッタ[®]について知りましょう

これからお使いになる糖尿病治療薬の「バイエッタ[®]」はよりよい血糖コントロールを実現するための2型糖尿病治療のためのお薬です。

治療目標の達成のために、糖尿病治療薬「バイエッタ[®]」の特徴や注意事項をよく理解し治療をはじめましょう！

バイエッタ[®]の作用

食事をとると、小腸からGLP-1（ジーエルピーワン）という消化管ホルモンが分泌されます。GLP-1はすい臓にあるβ（ベータ）細胞に働いてインスリンの分泌を促し、食事によって高くなる血糖値を下げます。

バイエッタ[®]は、このGLP-1という消化管ホルモンと同じ作用を持つお薬で、インスリンの分泌を促して食後の血糖値をコントロールします。



バイエッタ[®]の特徴

バイエッタ[®]はHbA1c（ヘモグロビンエーワンシー）値、空腹時血糖値、食後血糖値を低下させる作用があります。

バイエッタ[®]はすい臓からのインスリン分泌を促し、血糖値を低下させます。

食欲を抑えたり、満腹感を高める作用により、体重が減少する可能性があります。

ご使用にあたっての注意①

用法・用量

1日2回、朝食前と夕食前*60分以内に
投与してください。

*1日のうち約6時間以上の間隔をおいて下さい。

*食後の投与はしないでください。



投与量は主治医の指示に従ってください。

バイエッタ®には5 μ gペンと10 μ gペンの2種類があります。
5 μ gを1日2回投与することから治療を開始しますが、その
後、1ヶ月以上の経過観察後に主治医の判断で、症状に応じて
10 μ gに量を増やすこともあります。

投与開始日

1ヶ月以上
経過観察

10 μ g (マイクログラム)
を1日2回投与する。

5 μ g (マイクログラム)
を1日2回投与する。

バイエッタ®ペンの使い方は、取扱説明書または「バイエッタ®
ペンの使い方ガイド」をご覧ください。

ご使用にあたっての注意②

血糖値の確認

バイエッタ®の投与を始めてしばらくの間は、低血糖や高血糖といった副作用を起こさないように、こまめに自己血糖測定器で血糖値をはかるなどして、自分の血糖値の状態を確認することが大切です。

毎日きちんと血糖値をはかって、自分の血糖値の1日の変化を知ることから開始しましょう。

(血糖値を測るタイミングは主治医に確認してください。)



低血糖

バイエッタ®は他の糖尿病のお薬(スルホニルウレア剤など)との併用で低血糖を起こす可能性があります。(低血糖の症状については7ページをご覧ください)

現在、ほかに服用している糖尿病薬のお薬がある場合は、主治医の服薬指示を守って服用してください。

! 低血糖を起こさないように他の糖尿病のお薬の量を減らすこともありますので、主治医の服薬指示に従ってください。

高血糖、糖尿病性ケトアシドーシス

インスリン製剤からバイエッタ®へお薬の変更があった場合、ごくまれに高血糖*や糖尿病性ケトアシドーシスの症状*があらわれる場合があります。

バイエッタ®はインスリン製剤の代わりにはなりません。

! 次のような症状が現れたら、ただちに主治医へ相談してください。

*〈症状〉 口渇、多飲、多尿、悪心・腹痛、昏睡、頻脈、過呼吸など

バイエッタ®の主な副作用

バイエッタ®は血糖値を改善しますが、他の糖尿病のお薬と同じように注意すべき副作用がいくつかあります。

低血糖

低血糖とは、血糖値が正常範囲以下にまで下がった状態のことをいい、めまい、空腹感、ふらつき、手足のふるえ、脱力感、頭痛、動悸、冷や汗などの症状があらわれます。

低血糖は、初期症状が起きたときにきちんと対処すればすぐに回復しますので、自己判断で中止しないようにしましょう。また低血糖が起こったら、必ず主治医に報告するようにしましょう。

低血糖の主な症状

血糖値	症状
50mg/dL	強い空腹感、だるさ
	冷や汗、皮膚蒼白
	動悸が激しくなる
	頭痛、悪心
	吐き気、目のかすみ
	集中力の低下、意識障害
30mg/dL	けいれん、昏睡



※低血糖症状が起こる血糖値には個人差があります。自分の初期症状をよく理解しておくことが大切です。

低血糖を感じたら、次のステップで対処しましょう。

ステップ1 血糖値をチェックする

ステップ2 血糖値が低すぎる場合は、次のいずれかを摂取する。



- ブドウ糖(5～10g)
- ブドウ糖を含む清涼飲料水(150～200mL)
- 砂糖(10～20g)

α -グルコシダーゼ阻害薬を併用している場合はブドウ糖を摂るようにしてください。

ステップ3 15～20分待ってもういちど血糖値をチェックする。

血糖値が低いまま改善されない場合はステップ2と3を繰り返す。

血糖値が正常範囲内に戻ったら

血糖値がもういちど低下しないよう症状が治まったら、すぐに食事をとるか、糖分の多い食品をとりましょう。

血糖値が低く気分がよくならない場合

すぐに主治医の診察を受けましょう

- 車を運転している場合は、すぐに車を止めて対処しましょう。
- 低血糖を起こさないように他の糖尿病のお薬の量を減らすこともありますので、主治医の服薬指示に従ってください。

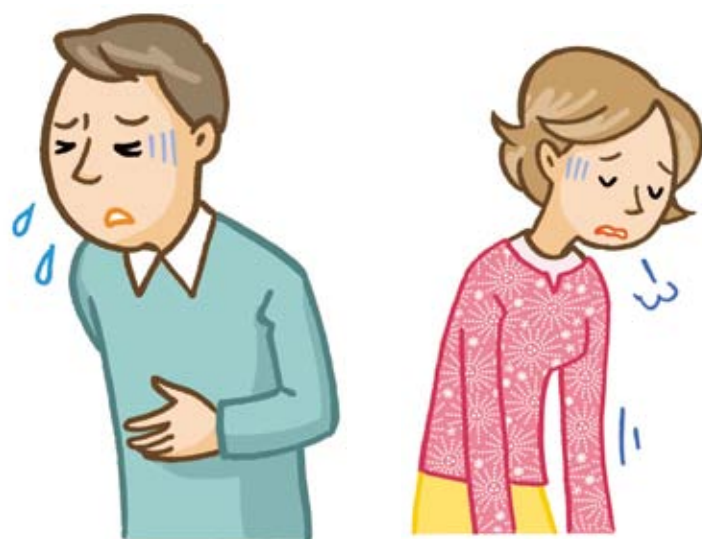
バイエッタ®の主な副作用

胃の不快感(悪心)

バイエッタ®の投与時には、吐き気などの胃の不快感(悪心)を感じることがあります。このような症状を感じても、投与を継続していくうちに軽減されていくことがあります。吐き気を感じても、自己判断で投与をやめたりせず、まずは主治医に相談してください。

〈症状〉

胸がむかむかする、吐き気など



その他の副作用

〈症状〉

便秘、食欲減退、嘔吐など

まれに下記のような症状があらわれ、下記 ☐ 内に示した副作用の初期症状である可能性があります。このような場合には、使用をやめて、すぐに主治医の診療を受けてください。

- 強い空腹感、脱力感、手足のふるえ …………… [低血糖]
- むくみ、全身のけいれん、貧血 …………… [腎不全]
- 嘔吐を伴うような持続的なおなかの痛み、発熱、吐き気 …… [急性膵炎]
- 呼吸困難、発汗、全身の発疹 …………… [アナフィラキシーショック]
- まぶた・口唇の腫れ、呼吸困難、じんましん …………… [血管浮腫]
- 便秘、おなかのはり、持続するおなかの痛み、嘔吐 …………… [腸閉塞]

**⚠ 何か異常を感じた時は直ちに
医師へご相談ください。**



バイエッタ®の保管

未使用のバイエッタ®ペン

- 未使用のバイエッタ®ペンは、凍結を避け冷蔵庫(2～8℃)で保管してください。
- ※ 凍結したバイエッタ®ペンは使わないでください。



ご使用中のバイエッタ®ペン

- 使用開始後は25℃を超えないところに置かないでください。
- 注射針を取り付けたままバイエッタ®ペンを保管しないでください。注射針を取り付けたまま保管すると、バイエッタ®ペンから薬液がもれたり、カートリッジ内に空気が混入することがあります。

注意

バイエッタ®ペンと注射針は、お子様の手が届かないところに保管してください。



バイエッタ®についてよくある質問

Q 注射を忘れてしまったらどうすれば良いですか？

A 注射を忘れた場合は主治医に相談してください。
絶対に2回分を一度に注射してはいけません。

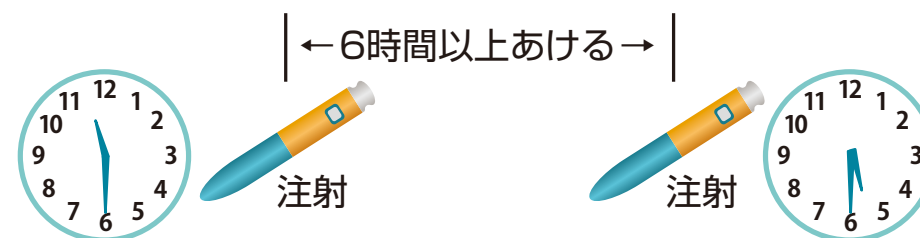


Q 注射後に食事をとらなかった場合はどうなりますか？

A バイエッタ®は血糖値の上昇に応じてインスリンの分泌を促す薬剤です。従って、バイエッタ®投与後に食事をとらなくても、低血糖を起こす可能性は低いと考えられます。ただし、スルホニルウレア剤を併用している場合はバイエッタ®投与後に食事をとらないと低血糖を起こす可能性があります。

Q 2回の注射の間はどれくらいあければ良いですか？

A 少なくとも6時間はあけてください。



Q 食後にバイエッタ®を注射するとどうなりますか？

A バイエッタ®を食後に注射した場合は、適切な血糖コントロールが得られませんので、食後の投与はしないでください。

血糖値などの数値を記録して確認しましょう

バイエッタ®の特徴や注意事項はご理解いただけましたでしょうか。バイエッタ®の投与を継続することでよりよい血糖コントロールを目指し、糖尿病の治療目標を達成しましょう。

血糖値などの数値を記録・管理することは、よりよい血糖コントロールを実現するためにとても大切です。定期的に血糖値などを確認しながら治療を継続しましょう。



	HbA1c 値 (%)	食後2 時間後の血糖値 (mg/dL)	体 重 (kg)
年 月 日	%	mg/dL	kg
年 月 日	%	mg/dL	kg
年 月 日	%	mg/dL	kg
年 月 日	%	mg/dL	kg
年 月 日	%	mg/dL	kg